



Certified Social Worker くまもと

◆特集 P4~P6
キャンパスソーシャルワーカー



第
57
号

【事務局】
一般社団法人
熊本県社会福祉士会

熊本市東区健軍本町1-22
東部ハイツ105

Tel 096-285-7761
Fax 096-285-7762

E-mail :
kumacsw@lime.plala.or.jp

URL :
<http://kumacsw.com/>

発行責任者 黒田 信子
編集責任者 魚谷 康洋
発行日 2016年12月1日

第1回 災害時支援委員会を開催しました

2016年10月1日、特命理事の深谷副会長、紫藤委員長を始め16名が出席し、第1回目の災害時支援委員会を事務局にて開催いたしました。この委員会は今年度の事業計画に基づき設置された10番目の委員会です。

初めに、熊本県社会福祉士会として支援を行っている益城町と西原村の状況について説明がなされました。本会では、①ソーシャルワークを發揮する支援であること、②被災地が主体となる支援であること、③終了を見据えた継続的な支援であること、以上3点を支援方針として掲げています。

その後、日本社会福祉士会が中心となり、6月13日から開始された西原村地域包括支援センターへの支援の状況と、8月29日から開始された益城町西部地域包括支援センターへの支援状況について報告がなされました。全国より2名1組の支援活動員をリレー方式で派遣されております。活動内容としては、仮設住宅、避難所や在宅の方の訪問（安否確認、アセスメント、相談対応等）を行っているところです。息の長い継続的な支援が必要なことから、県内の会員の皆様にも協力の呼びかけを行っております（詳細につきましては、ホームページをご覧ください）。



委員会の様子

また、本委員会では、今後県内外で災害が発生した場合を想定した災害対応マニュアルの策定等を行っていくこととしています。今年は熊本地震に加え、大雨や台風接近による土砂災害が多発し、茨城県や沖縄県、鳥取県でも大きな地震が発生しており、全国どこにおいても突然災害が発生するリスクを抱えています。これらの災害に組織として対応する為の体制を今年度構築するとともに、被災地で活動する支援者を養成するための研修についても今後行っていく予定としています。

ブロック長紹介



**③熊本県南ブロック長
池上 和行**
年間何回の研修をメインに熊本市中央ブロック・北ブロックと一緒に合同でやっています。がたんななつせ。



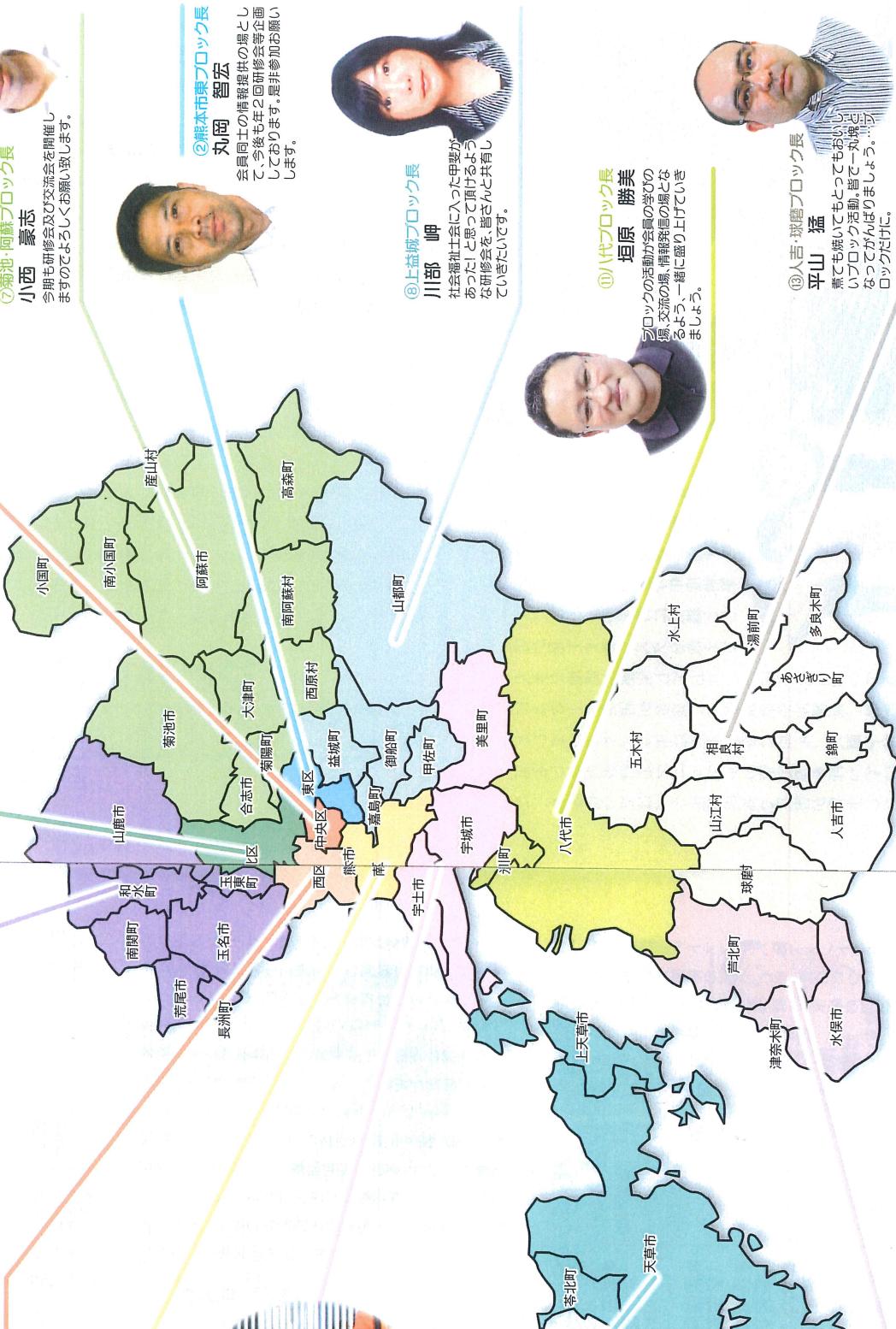
**⑥荒玉・山鹿
ブロック長代理
永田 恵里香**
小学生2男の母です。近くで楽しく学びあえる研修会をしていきたいとと思っています。ご参加お待ちしています。



**⑤熊本市北ブロック長
立山 明子**
研修会を通じて、社会福祉士のネットワークを作りましょう。一緒に活動しませんか。



**①熊本県中央ブロック長
坂本 眞奈美**
専門以外の話を聞いたり、他の専門の方と話をすることでお話し新しい見聞があるかもしれません!



**④熊本県西ブロック長
網田 勝也**
皆様と共に学び成長していくける場所に出来るようお願い申し上げます。よろしくお願い申し上げます。



**⑨宇城ブロック長
馬場 智宏**
宇城ブロック会員の皆様、ネットワークの拡がりを図るために研修会、名刺交換会を開催いたします。奮ってご参加ください。



**⑩天草ブロック長
田尻 龍一**
県内でエプロン面積が一番広いブロックです。研修会等を通じて会員同士の繋がりができて、顔の見えるつながりができます。



**⑪水俣・芦北
ブロック長
高木 真一**
地図に併記した、オーブンな社会福祉士会を目指し、会員向上、明るく、貧困の向上に努めます。



**⑫人吉・球磨
ブロック長
平山 雄**
煮ても焼いてもとてもおいしい、いブロック活動。皆で一緒に食べてがんばりましょう。



特集

キャンパスソーシャルワーカー

「大学生の社会的自立をめざして」百崎 知代

1 大学全入時代

「多様な学生が入学している背景」

大学全入時代と言われる今日、多様な学生が大学に入学しています。大学進学率が高くなつた背景に、少子化の影響があることは知られていますが、「多様な学生」が入学している背景としては、これまで貧困・学力・発達特性など何らかの理由で進学できなかつた学生が、社会的な支援を受けたことで進学が可能になつていても少なくないと思われます。

大学入学に至るまでの生活の中で、母子関係、学校関係、医療機関、地域社会などにおいて、社会福祉士が支援に関わつたケースも多いのではないかでしょう。例えば、恵まれない学習環境におかれたり児童・学生に対する学習機会の保障や、負の世代間伝達の分裂、貧困の連鎖からの脱出などには、社会福祉士がソーシャルワーカーとして価値と倫理を



もとに活動した成果があらわれていると思います。誰もがどんな環境下でも自己実現を目指せる、夢や希望を抱き学びたい人が安心して進学できる環境が整つたことは素晴らしい事ですが、入学してから社会的自立まで見通した支援が、大学においても求められています。

2 キャンパスソーシャルワーカー（CSW）配置の背景

CSW配置の理由



- 学生支援において専門性が必要だと感じた
(発達障害者支援法、障害者差別解消法などの施行に伴う支援)
- 教職員だけでは、学生対応に困難や限界を感じた
- 実質的に学生の問題が多発するようになった
- 学内において連携した支援が必要になった
- 大学において保護者からの相談が増えたなど

[引用資料]長沼洋一・長沼葉月(2011,2014)
「大学ソーシャルワーカーの配置状況に関する全国調査」

3 CSWの活動内容

- ・社会資源の紹介や連携(コーディネート)
- ・休学、退学などを含む学生問題への予防的な対応
- ・様々な発達特性を持つ学生への対応
- ・個別相談への対応(学修関連、就活、家庭の問題、経済的な問題、対人関係の悩み、心理・性格について、性について、生活上のトラブル、ハラスメントなど)

では、熊本県社会福祉士会からの推薦を受け、現在4名の社会福祉士(キャンパスソーシャルワーカー3名、スーパーバイザー1名)が交代で勤務しています。(※現在、熊本県内でキャンパスソーシャルワーカーが配置されているのは熊本大学、熊本学園大学、九州看護福祉大学の3大学)

また、課題解決のために必要があると判断された場合は支援チームが作られ、CSWはその中で支援計画を作成したり、コーディネーターの役割を担います。

受ける相談は全国同様に年々増加傾向にあり、相談内容も対象も様々です。平成28年熊本地震の後からは、被災により生じた経済的な問題、心理的な問題についての相談が寄せられています。必要に応じて専門機関を紹介していますが、大規模災害が学生や家庭にもたらした心理・社会・経済的な課題は長期化する印象を持っています。



相談時のイメージ ※対象者の了承を得て撮影

ある学生は奨学金を借りて在学していましたが、多欠席のため単位が取れず、それが原因で奨学金が打ち切りとなり、経済的理由から退学に至りました。このケースの様に、退学の直接的な理由は「経済的理由」ですが、その背景に多欠席や多欠席に至る様々な要因が隠れていて、それが少なからず退学の理由になっています。このような隠れた課題は、よく氷山の様子に例えられますが、水面から出ている部分が顕在化している問題で、その水面下にはまだ明らかになつていらない課題が隠れていることがあります。顕在化している課題以外に、学生の話に真摯に耳を傾け、受容するという基本姿勢と、丁寧なアセスメントを行うことで、学生の置かれている環境、これまでの背景を明らかにしていくことを大切にしています。

ます。

ある学生は奨学金を借りて在学していましたが、

多欠席のため単位が取れず、それが原因で奨学金が打ち切りとなり、経済的理由から退学に至りました。このケースの様に、退学の直接的な理由は「経済的理由」ですが、その背景に多欠席や多欠席に至る

様々な要因が隠れていて、それが少なからず退学の理由になっています。このような隠れた課題は、よく氷山の様子に例えられますが、水面から出ている部分が顕在化している問題で、その水面下にはまだ明らかになつていらない課題が隠れていることがあります。顕在化している課題以外に、学生の話に真摯に耳を傾け、受容するという基本姿勢と、丁寧なアセスメントを行うことで、学生の置かれている環境、これまでの背景を明らかにしていくことを大切にしています。

表面化している現象の背景に気付く



参考文献：米村美奈(2014)「大学におけるキャンパスソーシャルワーカーの必要性とその実態：全国の大学ソーシャルワーカーへの聞き取り調査から見えてきたもの」
学校ソーシャルワーク研究

キャンパスソーシャルワーカー事例① 退学を考え直したケース

単位が足りず4年で卒業できない、経済的な負担もあるので大学を辞めて就職したい。そう興奮気味に話す学生の話をじつくり聞くと、苦手科目を克服できないことを親から努力不足と責められ、退学を勧められていると涙ながらに話してくれました。また、以前ウエクスラーア成人知能検査を受けており、外国語を聞き取り、処理する能力が弱いことが分かりました。

その後の面談では、「可能であれば大学を続けたい」という学生の本心が確認され、今後大学を継続するための目標設定や、課題克服の方法を一緒に考えていました。また、学科長を含めての面談では、心理検査の結果を本人が開示し、学科長は学生の特性（語学の聞き取りが苦手）を理解され、その内容が担当教員に伝えられました。

親に対しては、本人の同意の上、以前より関わっていた別の相談員が面談を行いました。親も本人の特性は理解しているが、本人を鼓舞しようと思いつい厳しい厳しい発言をしてしまう。留年を繰り返されると経済的な負担が大きくなる為、「在学の期限を設けたい」との意向を示されました。

在学が可能になつた学生は、「最短で卒業する」という目標に向かって頑張っています。CSWは月に1、2回の面談のなかで状況確認を行い、困っている状況が明らかになれば、その都度対策について本人及び関係者と話し合っています。学生の行動は、困った時には誰かに相談したり、配慮を求めたりと、課題を克服するための行動に変わつてきました。

3年次から継続支援。卒業、就職へ。

・キャンパスソーシャルワーカー事例②

発達障害者支援センターからの紹介で、3年次の春に来室。学生は大学を休みがちで、当初は休学を検討していました

が、これまでの単位取得状況などから「続けられるところまでの修学継続」を目標に掲げました。

CSWは、まずは月に1、2回の面談を通して、学修状況と提出物を中心に確認を行いました。また、苦手な科目の担当教員に本人への声掛けを依頼。本人は、教員との距離が近くなつたように感じたと述べており、学生の向学意欲を高めるために効果的だったようです。

資格取得のため実習の準備も進めていましたが、説明会に寝坊の為遅刻し、実習へ行くことができなくなつてしまいまして。この遅刻を機に、これまで家族との連携を拒否していた本人は、遅刻を防ぐためには家族の協力が不可欠という認識を得ることができました。家族には、生活リズムの調整を主に依頼しました。

「在学中の資格取得」は難しくなりましたが、「4年で大学を卒業する」という新たな目標を設定し、4年次は面談を週1回に増やしました。講義前に面談を設定することで、遅刻・欠席を防ぐ効果が得られ、学外でのトラブルにもすぐに対応でき、本人の不安解消に繋がつたようです。

課題の内容については学内の教育センターに協力を依頼、また出席状況に不安がある科目については担当教員を含めての面談も行いました。

さらに、「就職」という目標も同時に掲げ、就労支援機関の紹介なども行いました。CSWは、本人や連携先より依頼があつた際は、学内における支援について情報提供など行いました。精神保健福祉手帳の取得のため精神科医療機関の再受診を行つたのも同じ時期です。

本人の地道な努力と、周囲の配慮がなされた結果、ついに4年での卒業が可能となり、障がい者枠での就職も決定しました。

卒業が決まつた後、本人から「支援によって卒業することができたので、就職先でなんとか頑張ります!!」とのメールをもらいました。なんとか頑張りますという言葉に、本人の強い意志を感じました。

PR 「なんでも相談室」を

PR



なんでもカフェ出店の様子

熊本市中央・西・北ブロック

研修会開催 支援者の支援

～SWの元気を支えるスーパービジョンの視点から～

熊本市中央・
西・北の3ブロック



講師 西 章男氏

西・北の3ブロックは、毎年3回合同で研修会を開催しています。

今年度は熊本地震の影響もあり、2016年9月24日(土)に熊本県総合福祉センターにて第1回目の研修会が開催しました。

当会の理事で九州ルートル学院大学准教授西章男氏を講師とし、「支援者の支援」、SWの元気を支えるスーパービジョンの視点から」というテーマで、これまでの講演中心の研修とは異なり、参加者がコの字形式で座り、ロールプレイを取り入れた形式の研修会でした。

対人援助の専門職であるソーシャルワーカー(SW)は、クライエントを支援し元気にする役割が求められます。そのためにはSW自身が元気であることが必要になります。西氏は、SWの構造を木に例えられ、木の根っこにある心(価値・倫理)を大切にすることで豊かなソーシャルワークが実践できること、スーパービジョンの支持的機能がSWのためのソーシャルワークであり、SWを元氣にする方法でありシステム

であると説明しました。

支持的機能を基盤としたスーパービジョンの視点について、西氏は「ストレンジス」と「ナラティヴ」の2つの用語を用いて説明しました。クライエントの回復する力を信じ、問題や欠点ばかりに焦点をあてるのでなくその人らしさ(自分らしさ)を見ること、現状の問題以外に焦点が当たっていないクライエントの生活歴の「白紙の部分」に関心を持つことで、クライエントの問題点が主流の物語(ドミナンストーリー)に代わる物語(オルタナティブストーリー)を紡ぎ出すナラティブアプローチについての重要性を、知的障がい児の事例などを交えて解説しました。

ロールプレイでは参加者が一人一組になり、参加者自身のSWとしての問題(致命的な欠陥)を発表し、それをお互いに別の角度から肯定的にとらえたり(リフレイミング)、ユーモアを取り入れてその人と問題を切り離したり(外在化)しながら、自分たちのストレンジス探しの作業を行い、自分が自分であることを肯定することがクリエイントにとっても良い影響を及ぼすということを学びあう機会となりました。

なお、今回のテーマは次回(2017年2月)の研修会においても引き続き行われる予定です。



研修会の様子

熊本刑務所見学会を開催します

熊本刑務所には本会会員の社会福祉士が1名配置され、司法と福祉をつなぐソーシャルワークを実践しています。このたび、刑余者の地域への受け入れと福祉的支援についての理解の醸成を目的とし、会員向けの刑務所見学会を企画しました。刑務所内の見学と刑務所配属の社会福祉士との質疑応答を予定しております。

日 時	2017年1月20日(金)13:30~15:30
場 所	熊本刑務所(熊本市中央区渡鹿7-12-1)
参 加 資 格	熊本県社会福祉士会会員
募 集 方 法	別添申込書に必要事項をご明記の上、

ファックス:096-285-7762 または
メール:kumacsw@plala.or.jp でお申込み下さい。

※申込書は本会ホームページからもダウンロードできます。

締 切	2016年12月20日(火)必着
	※定員は20名を予定しております。定員を超す応募があった際は先着順とさせていただきます。

ブロック紹介

熊本市南ブロック長 網田 勝也



はじめに、会員の皆様をはじめ、熊本地震・豪雨災害で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

熊本市南ブロックは現在会員67名で、「個々の分野に限らず、社会福祉士としての知識や視点等を幅広く研鑽できるような研修企画を日指し、スキルアップの向上に繋げる。また、名刺交換会を開催する」として、会員間の幅広いネットワークの構築に繋げる。「」をテーマに、宇城ブロックと合同で、年2回研修会を開催いたしております。

2015年度は、第1回目に「スクールソーシャルワーカーの仕事について」をテーマに、本会会長の黒田信子氏に、具体的な実例を元にご講演いただきました。第2回目は「災害ボランティアセンターの運営から見える災害時支援の現状と課題」というテーマで、熊本県社会福祉協議会の西村雄一氏にご講演いただきました。事前の防災意識・対策の重要性はもちろんの事、最も印象に残った事として、「受援力（支援を受ける力）」が実際に災害の現場においてお互いに大きな力となるということでした。

その度に幅広い見識や多様な技術の必要性を感じました。ブロック研修会を通して、幅広い知識や技術の構築に繋がるような研修会を開催できればと思つております。また、研修会後は名刺交換会を開催いたしております。熊本市南ブロックにおいても多様な分野からのご参加も少なくなく、各専門分野の方々からのその時その時の生の声（情報）を聞かせて頂けることはありがたい事で、他にはない貴重な場と感じております。また、その中から、ふと困ったときにお互いの顔が思い浮かび、助け合えるようなネットワークの構築の場に繋げて行ければ幸いに思います。

南ブロックは、熊本市中心部からもほどなくの場所にありながら、一歩出れば田園風景も見渡せるような地区です。国内でも有数の国指定史跡塙原古墳群（公園や歴史民俗資料館）や日本三大不動である木原不動尊など、主要観光地にも負けないような観光地が多くあります。ご機会があれば、南区方面にも足をのばしてみてください。

最後になりましたが、研修会開催等にあたり、ご支援頂いております講師の方々をはじめ、関係各位の皆様に感謝申し上げます。また、皆様と共に学び・成長していくような場に出来る様、励んでまいります。また、皆様と一緒に、ご自身も被災した事の無いような事象や災害が起つる事も少なくなく、南ブロックにおきましても震源地からほどなくの場所にあり、多くの方々が被災なされました。災害発生時は混乱を極め、実際自分自身も被災した中で、受援力（援助を受ける力）を發揮するとの大切さを感じると同時に、一方では社会福祉士として援助者としての自身の見識の無さや技術不足を痛感し、

「時間が解決してくれます。」

これは先月、ある技術講習会で久々にお会いした七十代の社長Nさんの言葉です。Nさんは今も、地震で全壊された自宅から出勤して会社の経営に精を出しているそうです。悩みや不安も時間が解決してくれますねと、そのとき私はある種の感動さえ覚えました。ソーシャルワーカーに限らず、誰もが様々な悩み、不安やストレスを抱えています。今回の熊本地震から何らかの不安を覚える人も多い中、自分だけこうだから仕方はない一人で悶々とするばかりでは、かえって解消の糸口を見つけられず、状況も悪くなる一方。誰かに愚痴をこぼすと気持ちは晴れるかもしれませんですが、根本的な解決にならない場合も多々あるでしょう。何らかの事態に直面したときに、こうすればを開けると頭で分つても、なかなかすぐに動き出すのは難しいですね。何かの一言がほしいですね。聴くと心に響く言葉。

近年、私は仕事の研修に限らず、興味のある講演会やイベントに参加するようになります。今年2月は熊本マラソン2016に参加しました。4キロコースではあります

が、走る喜びを覚えて、今もときどき走っています。人と出会い、いろんな話を聴けて、たくさんの知識を得られるだけでなく、様々な問題解決法を学び、新しいことを始めるきっかけになるなど、休日のお出かけは良いこと尽くめです。皆さんも実践してはいかがでしょうか。

つぶやき

